

ネットワーク連絡会 会議要旨

日時：平成22年3月30日(火)午後6時～8時
会場：しんじゅく多文化共生プラザ 多目的スペース
参加者：29人

～ 区長挨拶 ～

区長：みなさんこんばんは。今日は皆さん方から、新宿における多文化共生への意見や普段から感じていることなど、どんなことでも話して頂き、互いに情報を共有していきたいと思う。そして外国籍の方が多く住んでいることを積極的特長と捉え、プラスメッセージとして発信できるような意見交換をしていきたいと願っている。皆さんの意見を聞けることは、私にとって仕事を進めていく上で励みになる。また、皆さんとともに多文化共生プラザを充実したものにしていきたいと思っている。どうぞよろしくお願いします。

～ 進行説明 ～

区：＝＝次第・資料の説明＝＝

～ 自己紹介 ～

区：＝＝参加者の自己紹介・活動紹介＝＝

～ しんじゅく多文化共生プラザの実績報告について ～

区：＝＝プラザの利用人数や相談件数などを説明＝＝
利用者が10万人を突破した。登録団体56団体となった。

～ プラザ満足度アンケート調査結果について(報告) ～

区：＝＝プラザ満足度アンケート調査の説明＝＝
2週間受付にてアンケートを渡すやり方。4言語で行なう。
153人が回答。

～ 外国人への情報提供ガイドラインの作成について(報告) ～

区：＝＝外国人への情報提供ガイドラインの説明＝＝

～ 相談窓口レポート(報告) ～

区： == 相談窓口レポートのまとめ報告 ==

～ 大久保地区安全安心合同パトロールについて～

区： == 安全安心合同パトロールの報告 ==

～ 22年度多文化共生事業について～

区： == 22年度の多文化共生事業について説明 ==

～ プラザの運営のあり方について～

区： == 今後のプラザのあり方について ==

中間支援組織としてみた場合、利用者数だけでなく満足度や、新規カリピーターか等検討

一部の限られた人の場にならないよう、地域の方、一般区民の方への周知が必要

プラザの今後のやり方の検討や工夫が必要

他部署とも連携を図り、機能強化を図るべきである。

～ 意見交換～

A：昨年スタートブックを作成したが、その後、スタートブックに対する評判や改善すべき点はなかったか検証したら良いと思うがどうか。また、先日外国人登録窓口に行ったら、大学や専門学校、日本語学校等の新規入学生で混雑していた。待っている間に配り、読んでもらったらよいと思うが。

区：スタートブックについては、とても評判が良い。さらに改善すべき点などをリサーチし、よりよいものに改善していく。また、外国人登録窓口については、今後工夫していく。

B：スタートブックの作成に協力した。タイ語、ミャンマー語についても翻訳してほしい。楽しみに待っている。

区：区の基本的な考え方は、韓国・朝鮮、中国の方が7割を越える中で、この2ヶ国語と世界標準語の英語、それから日本語のルビをつけること、これを基本と考えている。

C：日本語のルビの考え方について確認したい。日本語がよく読めない人は、やさしい日本語にしないとわからない。また、やさしい日本語を翻訳する。そうしないと伝わらない。

区：今年度作成した「外国人への情報提供ガイドライン」にも考え方を示した。また、運用管理をしっかりとっていくこと、検証していくことが大事だと考えている。

D：財団が統合して文化センターへ行くとどうなるか、情報が無い。どうなっていくのか？ボランティアとして心配である。ネットワーク連絡会は、もっと事前にわかるとよい。

財団：新宿文化・国際交流財団と新宿区生涯学習財団が統合する。しんじゅく多文化共生プラザも今まで以上に力をそそいでいく。今度は文化交流課となる。基本的な考え方は、今までの質及び量を落とすことなく運営を行なっていくし、その姿勢で対応していく。

区：22年度の多文化行政は今まで以上に力を入れていく。担当の副参事を配置すると共にプラザの所長も担当の職員を配置する。一つ目は、プラザのあり方の検討、二つ目はスタートブックの改訂にみなさんの意見を参考にしていく。三つ目にプラザの周年行事に意見を取り入れていく。そうした取組みを今後検討していく。

E：今後の運営のあり方についてだが、超高齢化社会となって、夜は日本語が聞けない社会、限界集落になって来た。町会自治会が支えきれなくなっている。このネットワーク連絡会も集まる方が特定な人や特定の団体となってきている。地元では、プラザは、特定な人、特定な団体に使われているんじゃないかという話もある。ネイティブジャパニーズの負担を何とかしていただきたい。アパートを経営しているが、22世帯中4カ国の方が住んでいる。日本人は3世帯しかいない。ネットワーク連絡会でわれわれの負担軽減を考えていただきたい。ここに住んでいられない、そうすると日本語のいらぬ世界ができてしまう。負担と軽減の方法を何とか考えていただきたい。

区：負担の軽減を考えていただきたいということについては、22年度具体的にどうするか、課題解決ということで考えていきたい。

区長：みんなで育てていくこと、日本語が通じる地域ということが大事。みんなでつくるまちである。そのためのネットワーク連絡会にしたい。

F：広報にも出ている。3月5日の広報。多文化共生の推進と出ている。推進とはどういうことなのか。具体的には何の推進なのか？

区長：新宿は江戸以来の歴史を持ったまち。明治維新が起こったときも、いろんな人が集まってきて、つくられた町である。今は、9人に1人が外国人となった。顕著なのは、成人を祝う会出席者の26%、4人に1人が外国籍となったところにも見える。65歳以上人口は全国平均22%、東京20%、新宿18%、日本人だけだと20%を超えている。外国籍の方が増えているから若い町になっている。現実を見ながら、どうしたらコミュニケーションをとることができるか、互いの違いやよさを分かり合えるか。そのツールとして日本語学習支援に力を入れている。この町で暮らすルールを認識しあうことが重要。お互いに誤解が生じることは不幸だ。お互いに努力をすることが大事である。安全安心で質の高い暮らしを実感できること、そして日本人と外国人が共存できるまちづくりを皆さんと

ともに進めたい。

G：特別永住者等福祉特別給付金、これらは外国人に徹底できているのか。

区長：できている。高齢になられている少数の方だ。

H：韓人会として掲示板を建てた。増え続けている韓国人に日本の生活習慣をわかってもらうため、周知徹底を図るため、建てた。皆さんとも意見交換をしながら今後も活用していく。

I：営業のチラシは貼らないように、お願いしたい。

J：昨日、韓人会の打合せがあり掲示板については、管理する役員を決めて徹底してやっていく。

K：ゴミだしは、日本は細かいから日本語学校でもやるべきだ。

L：4月からゴミの出し方が変わる。日本人もわかってない。来たばかりの方はわからないからめっちゃくちゃだ。掲示板も印を押したもののしか貼らないとか徹底してやってほしい。

M：掲示板のルール作りをする。

N：ネットワーク連絡会に初めて出た。人数が少ないが、何町会ぐらいに声をかけているのか。

区：位置づけは誰でも参加できる誰でも入れる連絡会となっている。登録が40団体、開催通知を出している町会としては3町会。

O：日本語支援や情報伝達等、テーマを決めていかないと次につながらないのでは。

区：今後の検討課題であるが、掘り下げてやっていくことは大事である。どんなテーマでということは今後検討していく。

P：私が入っている会としてこの連絡会にどのようなかわりが持てるか難しい。情報は沢山あるが、どこからどうとらえられるか。ここにいる人がお互い横のネットワークをとられれば、もっと良くなるのではないか。

Q：プラザの運営のあり方について、量から質へ転換していくべきである。今までには、相手と対話が少なかったと思う。もっとこのプラザを中心に対話ができる場を作ってほしい。

R：情報発信に関してですが、一番大事なものは住民である。こういった場合は非常に良いことである。区民が行政に要望する場というより、むしろ効率的に住民に情

報発信をするためのきっかけ作りをこの連絡会や新宿区がやる。そのためにはより多くの市民社会の代表が参加することが大事である。

S : 外国人が多いが、2種類いる。根付いている方と短期間この町に住んでいる方。18歳19歳で新しく来た方は、このまちのルールがわからない。スタートブックは評判がいい。特に不動産関係に好評である。ただ、これがどこにあるかわからない。自分たちのところにおいてくれないか等配布場所も検討してもらいたい。

T : 仲介業者が説明しなければならないこともある。が不動産業界は徹底してない。それと心配しているのは宗教関係のイベントや掲示のこと。特殊な人たちが特殊なことをする。ビラをあちこち貼ったり集団で動いたり、どのような団体かわからないだけに脅威である。そういった人たちが、このネットワーク連絡会に入ってもらおうといい。大変に残念。

区長 : 顔が見える関係が安心を作りだす。ネットワーク連絡会が顔のみえる関係を作りたい。そうした中で皆さんと共に共生できるような課題が何なのか、作り上げていきたいと思っている。顔の見えない関係は不安にも誤解にもつながっていく。また、皆さんと共に顔が見える関係を作り上げていきたいと思う。ご協力をお願いしたい。